

介護老人保健施設しおさい

症 例 概 要 利用者：90歳代 女性 要介護3

利用期間 ：令和5年7月～現在

病 名 ：脳梗塞・心房細動・緑内障

既往歴 ：未破裂脳動脈瘤・水頭症

経 過 ：R4年4月、脳梗塞発症。右麻痺・運動性失語症が後遺症として認められた。主に移動・排泄等の日常生活全般に介助を要するが、ご家族は『出来る限り自宅での介護をしたい』との思いが強く、自宅をリフォームされ在宅へ退院される。ご家族の介護負担軽減目的のため、当施設の通所リハビリテーションご利用開始。通所リハビリテーション開始後、リハビリで自信がついたことでADL向上のみならず、単語レベルの発語も聞かれるようになり、ご本人にはご本人らしさを、ご家族には安心を超えた感動を与える症例となった。

内 容

もともと明るい性格で笑顔の多い方だったそうですが、脳梗塞発症後、ご自分の身体の変化や失語症もあり自信を失ってしまったご様子だったそうです。特にご家族以外との交流に不安があり、当施設ご利用当初は他ご利用者や職員に対して困った表情や暗い表情ばかりでした。

多職種カンファレンスで、ひとつひとつ丁寧にご本人に寄り添い、ご本人が安心して笑顔を出せる場になるようケアに携わるよう話し合いをしました。また発語による意思疎通が困難でしたが、言葉に出来ない思いを汲み取りたいと思い、まずは短い単語やジェスチャー、絵を描いて意思疎通していく等、コミュニケーションの取り方を工夫することで、信頼関係を構築し安心に繋がられるようにしました。

リハビリでは、ADL維持・向上を目指しました。もともと全介助レベルでしたが、リハビリを重ねていく中で、ご家族にサークル歩行訓練の様子を動画に収め、ご覧頂いたところ、その姿に大変喜ばれました。この事がご本人にとっても自信に繋がったご様子でした。

そこで、座位・立位も安定してきたので、カバーおむつを使用されていましたが、ご本人の出来る力を信じ、尊厳に重んじて、しおさいをご利用されているお時間だけでも、リハビリパンツに変更し、お手洗いで排泄を試してみたいとご家族にご相談したところ、「是非お願いします。」と仰ってくださりました。

すぐに成功しなくても、ご本人の力を信じて親身な対応を続けたことで、排泄もトイレ誘導で出来るようになりました。更に入浴もハーバー浴からスライド浴に変更し、ご自分で洗おうとするご様子が見られます。少しずつ出来ることが増えたことで、ご家族も、現時点での介護自体を負担に感じる事はなく、ご本人

身体的な面での向上が気持ちを明るくしたことや、しおさいでの信頼関係の構築により、ご本人にとって安心や自信が得られ、失語症に関しても、言葉で表現しようとする姿が見られるようになりました。先日は自宅での移乗時『1、2、3、』と言ったら『どっこいしょ』と、突発的に声を出すようになってきた事に感動されていました。

ご利用当初は全介助だった方が、通所リハビリテーションを通して、失った身体的機能だけではなく、「言葉」によるコミュニケーションを表出することが出来るようになり、ご本人の本来持つ明るく素敵な笑顔を取り戻すことが出来ました。

それはご本人だけでなく、ご家族にも笑顔や喜びを感じていただける症例となりました。